

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（11月分）

留学先大学：ルーマニア・アメリカ大学

氏名：白越 明

<はじめに>

11月に入り、早くもブカレストでは雪が降り始めました。11月の終わりには、最低気温が10°C以下の日もあり、日中でも気温は0度前後ととても寒い気候になってきました。持っている一番暖かいコートを着て、マフラーに手袋をつけて、ブーツを履いても、外に出て数十分いれば足先や手元から冷えてきます。福井育ちの私でも、この寒さは経験したことがないというほど寒いのですが、これでもまだ冬の始まりでこれからさらに寒くなっていくそうです…日本に帰る前に、ルーマニアで凍死しないことを祈りましょう。(笑)

寒さに負けそうになっている間に、気が付けば留学生活も残り2ヶ月と少しになっていました。クリスマスが終わって、年が明けて、テストが終わったら、もうすぐに帰国なんだろうな…毎日を大切に生きてしたいと思います。

ということで、今回の報告書では、1 module のテスト期間のことと、ボランティアとして携わった日本文化のコンサートのことについてお話させて頂きたいと思います。

< 1 module テスト期間 >

11月の中旬にかけて、1 module（1セメスターの前半）の授業のテストやプロジェクトがありました。RAUでは、この module 終わりの評価が10点中8以上なら単位をもらえ、セメスター終わりの試験を受けなくてもいいことになっています。8以下なら2 module 後に最終試験を受けなければならず、それで一定評価以上を取れば授業をパスすることができます。

1 module に取っていた授業では、Microeconomics がテスト1つ、International Business Management I がテスト2つにグループでのプロジェクト1つ（レポート提出とプレゼンテーション）、International Trade がテスト1つとグループプロジェクト（レポート提出とプレゼンテーション）がありました。やはり3年生の授業ではプロジェクトもテストも大変でした。特に、International Business Management I は、テストが2つあることに加え、内容が選択式の問題と自由回答の問題があり、かなり細かいところまで訊かれるテストだったので大変でした。前のセメスターに同じ教授の International Business Management II と取って、テストをパスすることが出来ず、試験まで受けてなんとか単位をとれたという経験をしていたので、今回はかなり力を入れて勉強しました。

そのかいもあって、なんとか3つともパスすることができ、最終試験を免除されました。ちなみに、International Business Management I のクラスでは正規の学生は誰もパスできなかったそう…。

<三味ピアコンサート>

11月16日には、RAUで日本大使館主催の、「ShamiPia」コンサートがありました。これは、大使館主催の様々な場所で行われている「日本文化月間」のうちのイベントの一つで、日本から三味線奏者の大野敬正さんと、ピアニストの元岡守さんを招いて行われた三味線とピアノのコンサートです。私の大学の日本語研究センターの学生もボランティアとして携わることになり、そこで私はなんとコンサートの司会を任されることとなりました。ルーマニア人のもう一人の学生がルーマニア語で、私が日本語で司会を行います。コンサートには、在ルーマニア日本大使夫妻をはじめ、ルーマニア在住の日本人の方々も来られるので、始まる前からとても緊張していました。



また、本番の原稿も前日に渡され、しかもそれは日本語を勉強しているルーマニア人が翻訳したものだったため、文章の手直しが必要でした。（そういうところはかなりルーマニアらしいです。笑）その原稿を自分で直したあと、大学の日本人の日本語教師の方に再度細かいところを確認して頂き、演奏者ご本人にもプロフィール紹介の内容に間違いがないかのチェックもして頂きました。

5月のHARU-URARAのイベント（詳しくは5月分の報告書をご覧ください。）で、ルーマニア人のイベントの進め方が日本とは全く異なることをすでに経験していましたし、今回は1日だけの大使館主催のイベントだったので、特に驚いたり、焦ったりすることはありませんでした。それでも、本番3分前になって急に司会の内容に変更があったりすると、日本のリハーサルを何度も行い、本番に合わせて完璧に準備していかうとするスタイルに慣れている私には、これは準備不足なのではと後悔してしまいます。

本番はとても緊張しましたが、なるべくゆっくり、観客の方が聞き取りやすいように心掛けて司会をしようと心掛けました。演奏者の方々のプロフィール紹介では、難しい漢字だらけの専門用語が多々あったのですが、なんとか嘸まずに乗り切りました。また、本番では、ルーマニア人の司会者が着物を着て、私はルーマニアの伝統衣装を着て司会を行いました。私が着た衣装はかなり本格的なもので、最近ルーマニア人でもあまりこのような衣装を着る機会がないそうなので、とても貴重な経験をさせて頂きました。日本人が少ない分大変なことも多いけれど、このような日本にいたら自分には回ってこないような機会を頂ける

ので、ルーマニアを選んだ甲斐があると思います。また、ルーマニアで急な無茶ぶりをよく



されるので、臨機応変に動ける能力も養われているように思えます。

<まとめ>

もう留学生活も 2 ヶ月と少しだなんて信じがたいですが、こんなに自分のやりたいことができる時間と、日本では出会うことができないような人達や環境が周りにあふれているこの状況は、この先いくら望んでも手に入るものではないと思います。この毎日が当たり前になってしまったけれど、もう一度この幸せを再確認して残りを大切に過ごしていきたいです。